

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ Career DesignⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			開講期間	4/10～8/23
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での臨床経験を有する教員が、ゲスト講師を招き歯科医療界の動向について授業する。						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解し、自らの将来像を明確にする。						
科目概要	自らの将来像を明確にし、それを実現するために必要な情報を収集し学ぶ。問題解決力をコミュニケーションの実践を通じて養う。						
到達目標	歯科医療界の動向について諸事例を元に学び将来像を明確にする。問題解決力やコミュニケーション力を今後のキャリア形成に活用する。進路決定の準備を具体的にし行動に移すことができる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。  評価は、授業後に提出する8回分のレポートを100点満点で行う。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯科医療界の動向や歯科関連企業の会社概要を調べることを推奨する。 【事後学習】授業を踏まえて進路決定を進めていくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/10)	履歴書の作成について	講義	歯科医療業界に歯科技工士として就職するときにポイントを紹介する。また、本校オリジナルの履歴書について、書き方の紹介する。
2	自己PRについて	講義	自身のアピールポイントを明確にし、自身の魅力を伝えられる履歴書を作成する。
3	ラボ見学	講義	自分の進路を考え、実際に歯科技工所等の見学を行う。
4	ラボ見学	講義	自分の進路を考え、実際に歯科技工所等の見学を行う。
5	ラボ見学 報告書作成	講義	自身が見学先とした歯科技工所の情報を整理し、発表できるよう報告書を作成する。
6	ラボ見学 報告会	講義	それぞれの見学先を紹介し、歯科技工所の情報を共有する。
7	卒業生講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
8 (8/23)	卒業生講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。

科目名 (英)	歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	7/25～9/11
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、実例を交えながら基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯科技工士関係法規を習得する。						
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について事例を交えながら理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科技工士に必要な衛生行政の概要を理解する。</li> <li>・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉えられるようになる。</li> <li>・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要を理解する。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/25)	衛生行政	講義	衛生行政の概要について理解する。 憲法第25条について理解する。
2	歯科技工士法、免許－1	講義	歯科技工士制度の沿革、歯科技工士法の目的について理解する。 歯科技工士免許、申請書類、欠格事由について条文を覚え、理解する。
3	免許－2	講義	歯科技工士名簿、名簿の登録事項について条文を覚え、理解する。 業務従事者届出事項について条文を覚え、理解する。
4	試験、業務	講義	歯科技工士試験、受験資格について理解する。 歯科技工指示書、守秘義務について条文を覚え、理解する。
5	歯科技工所	講義	歯科技工所の開設、届出事項、管理者の義務について理解する。 広告の制限について条文を覚え、理解する。
6	歯科医療関係法規	講義	医療法、医薬品、医療機器等法(薬機法)について概要を理解する。 歯科医師法、歯科衛生士法について概要を理解する。
7	歯科技工士法 まとめ	講義	歯科技工士法・免許、試験、業務、歯科技工所についてまとめ講義を通じて、理解を深める。
8 (9/11)	復習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯の解剖学総合 Dental Anatomy	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			開講期間	6/20～8/22
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教員歴も長い教員が国家試験の分析に基づき歯の解剖学の知識を分かりやすく授業を行う。						
目的	歯科技工士として、歯および歯周組織に関する知識を習得する。						
科目概要	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織の構造と経年変化について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯および歯周組織の発生由来、歯冠および歯根の発生機構を理解する。</li> <li>・硬組織及び歯周組織の構造と加齢変化について理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/20)	歯の概説・発生の復習	講義	これから勉強する「組織」と深く関連する歯の概説と2年次に履修した発生について復習する。
2	エナメル質	講義	エナメル質の基本的構造、加齢変化について理解する。
3	象牙質	講義	象牙質の基本的構造、加齢変化について理解する。
4	セメント質・硬組織のまとめ	講義	セメント質の基本的構造、加齢変化について理解する。
5	歯根膜・歯槽骨	講義	歯根膜・歯槽骨の基本的構造、加齢変化について理解する。
6	歯 肉	講義	歯肉の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯肉を含めて口腔粘膜の分類を理解する。
7	歯髄、組織の加齢現象	講義	歯髄の基本的構造、加齢変化について理解する。
8 (8/22)	復 習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯科理工学総合 Dental Materials Science	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			開講期間	6/20～8/21
講師紹介	歯科技工士として歯科医院での臨床経験を有する教員が、豊富な経験から現在の業界動向も交えた材料の知識や取り扱い方法を、ICTを積極的に活用し授業を行う。						
目的	製作する歯科技工物に用いる材料に関して、正しい知識と取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科技工物の製作で使用する材料の種類・組成・性質・取扱い方法について、事例を交えながら理解する。						
到達目標	歯科材料について、長所・短所を理解する。 歯科材料について、取扱いの注意事項について理解する。 歯科材料について、起こりうる失敗例の予防方法について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1、2年次(あるいは現行の)実習授業で使用した材料を振り返り、取り扱いの方法を確認しておく。 【事後学習】学んだ材料については、実習で使用する際に再度取り扱いの方法などを振り返りながら取り組むこと。		
参考図書	なし						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/20)	歯冠用硬質レジン	講義	硬質レジンの組成(フィラー、モノマー、重合開始剤など)について理解する。 硬質レジンの性質、重合の種類について理解する。 金属との結合(機械的維持、化学的接着)について理解する。
2	非貴金属合金	講義	コバルトクロム合金について特性と取扱いを理解する。 チタンおよびチタン合金について特性と取扱いを理解する。 ステンレス鋼について特性と取扱いを理解する。
3	研磨	講義	研磨の意義と目的を理解する。 機械研磨に用いる器具・機械と、砥粒の種類について理解する。 化学研磨(電解研磨)の方法と特徴、利点・欠点について理解する。 研磨効率について理解する。 各種修復物の研磨方法について理解する。
4	陶材・セラミックス1	講義	歯冠用セラミックスの種類(焼成温度による分類、成分による分類)を理解する。 セラミックスの機械的性質と強化方法を理解する。 長石系陶材の組成(長石、石英、カオリン、フラックス、金属酸化物、リューサイト)とその役割を理解する。
5	陶材・セラミックス2	講義	長石質陶材の築盛(練和、築盛、コンデンス)について理解する。 長石質陶材の焼成(焼成過程、気泡、注意点、焼成収縮)について理解する。 金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、陶材焼付用合金)について理解する。
6	特別講義 「デジタル化で変わる歯科治療」	講義	歯科におけるデジタル技術全般について理解する。 CAD/CAMを活用した歯科技工(材料、成形法)を理解する。
7	まとめ講義①	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。
8 (8/21)	まとめ講義②	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	デジタル歯科技工実習 Training of Digital Dental Technology	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	4/12～5/31
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での臨床経験を有する教員が、デジタル歯科技工に精通した講師をゲストに迎え、デジタル歯科技工に必要な知識や理論について講義およびデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMや3Dプリンターを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。						
科目概要	歯科用CAD/CAMや3Dプリンターについて、基本操作を体験しながら、デジタル歯科技工について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しができるようになる。</li> <li>・金属床義歯のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるようになる。</li> <li>・削り出したワックスパターンおよびプリントしたレジンパターンの取り扱いが正しくできるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、授業後に提出するレポート(オリジナルマニュアルを含む)を100点満点で行う。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容		【事前学習】CAD/CAMシステムの種類や特性について調べておくことを推奨する。 【事後学習】授業で学んだ工程やポイントについて、自力で操作できるよう反復練習することを推奨する。		
参考図書	CAD/CAMデンタルテクノロジー(医歯薬出版)						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/12)	デジタルデンティストリー	実習	アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違い、歯科技工で使用されるCAD/CAMや3Dプリンターについての概要と操作手順を理解する。
2	クラウンのデザイン① ／スキャナの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナの使い方から上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のデザインについての操作手順を習得する。
3	クラウンのデザイン②	実習	GCアドバシステムを用いて、上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のデザインを完成させ、操作手順やポイントを習得する。
4	クラウンのデザイン③ ／CAMソフトの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のワックスパターンを削り出し、CAMソフトの操作手順やポイントを習得する。
5	クラウンのデザイン 復習①	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
6	クラウンのデザイン 復習②	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
7	金属床義歯のデザイン①	実習	金属床義歯のスキャンからフレームデザイン(大連結子、スケルトン部)の工程を習得する。
8	金属床義歯のデザイン② ／CAMソフトの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレームのセッティング方法を習得する。
9	クラウンのデザイン 復習③	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
10	金属床義歯のデザイン③ ／3Dプリンターの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレーム出力と3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
11	金属床義歯のデザイン④ ／3Dプリンターの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレーム出力と3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
12	3Dプリンターについて	実習	3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
13	GCアドバシステムについて	実習	GCアドバシステムの概要、操作方法を習得する。
14	金属床義歯のデザイン 復習①	実習	前回までの学習内容をもとに、自力で金属床のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作できるように復習(マニュアル作成)する。
15 (5/31)	金属床義歯のデザイン 復習②	実習	前回までの学習内容をもとに、自力で金属床のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作できるように復習(マニュアル作成)する。



科目名 (英)	有床義歯技工学総合 Dental Technology of Denture	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			開講期間	4/11～5/23
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	金属床義歯の製作を通して、有床義歯技工学を総合的に復習し習得する。						
科目概要	金属床義歯の特徴、製作方法、その他有床義歯製作に必要な知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解する。</li> <li>・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	適宜紹介する。				【事後学習】毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/11)	金属床義歯－①	講義	金属床義歯とは何か、構造設計と金属床義歯の利点・欠点について理解する。
2	金属床義歯－②	講義	金属床義歯製作について、新たに加わる製作工程について理解する。
3	ケネディ/アイヒナーの分類	講義	ケネディの分類、アイヒナーの分類について理解する。
4	テレスコープ義歯	講義	テレスコープデンチャーについて理解する。
5	オルタードキャスト法	講義	オルタードキャスト法、連結子について理解する。
6	ノンクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。
7	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
8 (5/23)	まとめ講義	講義	金属床義歯、ケネディ/アイヒナーの分類、オルタードキャスト法、テレスコープ義歯、ノンクラスプデンチャーオーバーデンチャーについて、まとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯応用実習 I Advanced Training of Denture Techniques I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	4/13～6/8
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	講義で学んだ知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	ワックスアップからメタルフレームの研磨完成まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属床義歯の設計から耐火模型製作までの工程のデモンストレーションを見て製作し、作品を完成させることができるようになる。</li> <li>既製パターンを用いてのワックスアップの方法、注意点を理解し作品を製作することが出来るようになる。</li> <li>コバルトクロム合金の形態修正、研磨の工程、注意点を理解し作品を製作することが出来るようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、不合格とする。評価は、実技試験として、「提出作品」を60点、「レポートの評価」を40点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/13)	サベイング～設計	実習	サベイング操作を復習し、リンガルバー、RPI、双子鉤を含む金属床フレームの設計を理解する。
2	リリース、ブロックアウト	実習	設計に合わせた、作業用模型上での処理(リリース、ブロックアウト)について理解する。
3	複印象採得～耐火模型材注入 ／咬合器装着	実習	作業用模型をシリコン印象材で複印象し、高温鑄造用の耐火模型の製作について、それらの工程を理解する。
4	耐火模型乾燥～表面処理 ／咬合器装着	実習	耐火模型の乾燥から表面処理までの操作を理解する。
5	設計転写～ワックスアップ	実習	耐火模型の設計線転写、ワックスアップの手順について理解する。
6	リンガルバーワックスアップ	実習	既製パターンを用いてのリンガルバーのワックスアップ方法を理解する。
7	支台装置ワックスアップ	実習	既製パターンを用いての支台装置、スケルトン部のワックスアップ方法を理解する。
8	ワックスアップ完成～耐火模型トリミング	実習	既製パターンの連結および外フィニッシングラインの形成方法を理解する。
9	スプルーイング～埋没	実習	吸引加圧鑄造用の高温鑄造のスプルー、埋没の方法を理解する。
10	掘り出し～サンドブラスト ～スプルーカット	実習	リン酸塩系埋没材の掘り出し、非貴金属合金のスプルーカット、形態修正について、それらの工程を理解する。
11	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
12	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
13	荒研磨	実習	非貴金属合金の荒研磨の方法を理解する。
14	仕上げ研磨	実習	非貴金属合金の仕上げ研磨の方法を理解する。
15 (6/8)	研磨完成	実習	非貴金属合金の研磨操作、研磨後の処理の方法を理解する。

科目名 (英)	有床義歯応用実習Ⅱ Advanced Training of Denture TechniquesⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	6/9～8/2
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	講義で学んだ知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	人工歯配列、歯肉形成、レジン研磨まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属フレーム上での流し込みレジン用の人工歯排列の方法、注意点を理解し、製作することができるようになる。</li> <li>・金属フレーム上での流し込みレジン用の歯肉形成の方法、注意点を理解し、製作することができるようになる。</li> <li>・金属フレーム上での流し込みレジン用の形態修正、研磨の方法や注意点を理解し、製作することができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」を60点、「レポートの評価」を40点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/9)	フレーム模型試適	実習	金属フレームの作業用模型適合について理解する。
2	人工歯排列～削合	実習	流し込みレジン法のための人工歯排列と削合の工程を理解する。
3	削合～歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための削合と歯肉形成の工程を理解する。
4	歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための歯肉形成について理解する。
5	歯肉形成～コア採得準備	実習	シリコーンを用いたコア採得について理解する。
6	注入口付与～コア製作	実習	流し込みレジン法の注入口付与および、コア採得の工程を理解する。
7	流蠟～レジン注入準備	実習	シリコーンコアを用いた流し込み法について、流蠟操作方法を理解する。
8	レジン注入～重合	実習	流し込み方法、重合の方法を理解する。
9	注入口カット～形態修正	実習	流し込みレジンの形態修正の方法を理解する。
10	荒研磨	実習	流し込みレジンの荒研磨のポイントを理解する。
11	中研磨	実習	流し込みレジンの中研磨のポイントを理解する。
12	砂研磨	実習	流し込みレジンの砂研磨のポイントを理解する。
13	仕上げ研磨	実習	流し込みレジンの仕上げ研磨のポイントを理解する。
14	研磨完成	実習	流し込みレジンの艶出し、研磨後の処理についてポイントを理解する。
15 (8/2)	まとめ・振り返り	実習	金属床義歯の製作工程を振り返り、レポートを作成することができる。



科目名 (英)	歯冠修復技工学総合 Restorative Dentistry	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1			開講期間	4/11～5/30
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠等の製作に関する理論と技術について習得する。						
科目概要	陶材焼付金属冠の特徴、ポーセレン(陶材)の築盛・焼成、陶材焼付金属冠の製作過程、ジャケットクラウンについての理解を深める						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶材焼付金属冠の特徴、製作方法、製作上の注意点を理解する。</li> <li>・金属、レジン、陶材の特徴を理解する。</li> <li>・ジャケットクラウンの特徴、製作方法を理解する。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版) 国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/11)	陶材焼付金属冠	講義	陶材焼付金属冠(メタルボンドクラウン)の特徴、構造、製作上の注意点について理解する。
2	フレームのデザイン-1	講義	硬質レジン前装冠のフレームとメタルボンドクラウンのフレームの違い、窓開けの注意事項について理解する。
3	フレームのデザイン-2	講義	メタルフレームの表面処理法、メタル調整の方法、ディギャッシングの目的について理解する。
4	前鑑付け法と後鑑付け法	講義	メタルボンドブリッジの前鑑付け法と後鑑付け法について理解する。
5	修復材の加工-1	講義	歯科用合金の所要性質、タイプ別金合金、金銀パラジウム合金、陶材焼付用合金、硬化熱処理、金属元素と融点について理解する。
6	修復材の加工-2	講義	レジン前装と陶材前装の比較、歯科用陶材の組成、各成分とその役割・特徴について理解する。
7	修復材の加工-3 ジャケットクラウン	講義	クラックの原因、コンデンスの目的、コンデンス法の種類について理解する。 ジャケットクラウンの特徴、製作法について理解する。
8 (5/30)	復 習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	臨床歯科技工学 Clinical Dental Technology	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	4/17～6/26
講師紹介	大学病院、歯科医院、歯科技工所などの様々な臨床現場で活躍する本校卒業生や本校非常勤講師が、臨床現場で役立つ知識やコミュニケーションの取り方について実体験を交えた授業を行う。						
目的	臨床現場で必要とされる知識・技術およびチーム歯科医療について理解する。						
科目概要	様々な臨床現場で活躍する歯科技工士、歯科技工所の経営者による講義を通して、チーム歯科医療についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム歯科医療における歯科技工士の役割を理解する。</li> <li>・院内ラボや歯科技工所における歯科技工士の役割を理解する。</li> <li>・歯科医療現場で必要となる感染予防をはじめ、診療に関わる基本的な事項を理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、不合格とする。評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】必要に応じて事前に指示をする。 【事後学習】授業で学んだ内容についてレポートを作成する。		
参考図書	なし						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/17)	チーム歯科医療	講義	チーム歯科医療の役割について理解する。 講師: 駒井 啓一[Ⅰ部16期](歯科技工士・歯科衛生士)
2	これからの歯科技工	講義	海外の歯科事情についての学びを通して、これからの歯科技工の展望について理解を深める。 講師: 岡部 和幸[Ⅰ部22期](歯科技工士)
3	デジタル時代における 歯科技工士の役割	講義	デジタル時代における歯科技工士の役割について理解する。 講師: 下山 智之(歯科技工士)
4	院内矯正ラボの歯科技工	講義	院内矯正ラボにおける歯科技工士の役割、歯科医師との連携について理解する。 講師: 吉田 洵[Ⅱ部4期](歯科技工士)
5	ラボと歯科医院との連携	講義	ラボ(歯科技工所)と歯科医院との連携について理解する。 講師: 江川 朋宏[Ⅰ部24期](歯科技工士)
6	院内ラボの歯科技工	講義	院内ラボにおける歯科技工士の役割、歯科医師との連携について理解する。 講師: 吉田 真之佑[Ⅰ部39期](歯科技工士)
7	臨床現場での感染予防	講義	臨床歯科技工に携わるうえで知っておきたい「感染予防の知識」「レントゲンの見方」を理解する。 講師: 駒井 啓一[Ⅰ部16期](歯科技工士・歯科衛生士)
8 (6/26)	振り返り	講義	1回～7回までの「臨床歯科技工学」を聴講しての振り返り(レポート作成)を行う。

科目名	セラミック加工基礎実習Ⅰ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
(英)	Basic Training of Ceramic Processing Techniques I	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、セラミック加工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠のワックスアップ～鑄造までの製作過程を習得する。						
科目概要	メタルフレームのデザイン、窓開けの手順、高温鑄造について実践し理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> <li>・陶材焼付金属の窓開けの手順、注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> <li>・陶材焼付金属のスプルーイング～埋没の注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/3)	デッサン 上顎右側第一小臼歯 (15分間) Wax up 上顎右側第一小臼歯 (45分間)	実習	上顎右側第一小臼歯の解剖学的形態について理解を深める。 制限時間内でWax upを完成させる技工術式を習得する。
2	デッサン 下顎左側第二小臼歯 (15分間) Wax up 下顎左側第二小臼歯 (30分間) 〔主溝と外形〕	実習	下顎左側第二小臼歯の解剖学的形態について理解を深める。 制限時間内でWax upを完成させる技工術式を習得する。
3	Wax up 上顎右側中切歯	実習	上顎前歯部Wax upの手順、注意事項について理解を深める。 上顎右側第一小臼歯の彫刻の手順、注意事項を理解する。
4	Wax up 〔修正〕 上顎右側中切歯→上顎右側第一小臼歯	実習	上顎右側中切歯の特徴を理解する。 上顎右側第一小臼歯の特徴を理解する。
5	シリコーンコア採得 〔上顎右側中切歯〕 Wax up 下顎左側第二小臼歯 〔修正〕	実習	コア採得の意味と採得方法を理解する。 下顎左側第二小臼歯の特徴を理解する。
6	窓開け 上顎右側中切歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの手順、注意事項について理解する。
7	窓開け 下顎左側第二小臼歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(フルベークタイプ)の手順について理解する。
8	窓開け 上顎右側第一小臼歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項を理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(ベニヤタイプ)の手順について理解する。
9	窓開け 〔修正〕	実習	前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解する。
10	窓開け 〔修正〕	実習	窓開けの注意事項を理解する。
11	スプルーイング (試験体)	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 ハンドル付与～スプルーイングの注意事項について理解する。
12	マージンチェック～スプルーイング	実習	メタルマージンとポーセレンマージンの違いについて理解する。 マージンチェックの手順、注意事項について理解する。
13	スプルーイング～円錐台植立	実習	スプルーイング～円錐台植立の手順、注意事項について理解する。
14	円錐台植立～埋没	実習	円錐台植立～埋没の手順、注意事項について理解する。 リン酸塩系埋没材の使用法、注意事項について理解する。
15 (6/1)	鑄造体の掘り出し	実習	リン酸塩系埋没材の除去方法の手順、注意事項について理解する。 サンドプasterの使用法、注意事項について理解する。

科目名 (英)	セラミック加工基礎実習Ⅱ Basic Training of Ceramic Processing Techniques II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	6/1~7/13
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、セラミック加工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠のメタル調整～研磨・完成までの製作過程を習得する。						
科目概要	メタルフレームの表面処理法、ポーセレンの取り扱い方、形態修正の手順についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> <li>・陶材焼付金属のメタル調整～グレージングの手順、注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> <li>・陶材(ポーセレン)の取り扱い方の注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	ノリタケスーパーパーポーセレンAAA 取扱説明書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/1)	スプルーカット～適合チェック	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 スプルーカット～適合チェックの手順、注意事項について理解する。
2	メタル調整	実習	メタル調整の目的について理解する。 メタル調整の手順、注意事項について理解する。
3	メタル調整～フレーム完成 ディギャッシング	実習	メタルフレームの形態について理解する。 ディギャッシングの目的、方法、注意事項について理解する。
4	オペーク築盛・焼成 試験体→上顎右側第一小臼歯の順に	実習	上顎右側中切歯の特徴を理解する。 上顎右側第一小臼歯の特徴を理解する。
5	オペーク築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕	実習	オペーク陶材の目的、取り扱い法について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
6	デンティン色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
7	エナメル色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
8	デンティン色築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
9	エナメル色築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
10	トランスルーセント色築盛・焼成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	トランスルーセント色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。
11	形態修正 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解する。
12	追加築盛・焼成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	追加築盛・焼成の方法、注意事項について理解する。
13	形態修正 完了 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
14	グレージング 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	グレージングの手順、注意事項について理解する。
15 (7/13)	メタル研磨・完成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 メタル研磨の手順、注意事項について理解する。



科目名 (英)	セラミック加工応用実習 Advanced Training of Ceramic Processing Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	吉澤 和之
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	7/6～7/28
講師紹介	株式会社オーアラ(歯科技工所)の代表取締役であり、業界を代表する歯科技工士でもある講師が、豊富な実務経験を活かし、審美技工に必要な知識や理論について講義およびデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠の製法について、より臨床的な技法を習得する。						
科目概要	マージンポーセレン法や内部ステインテクニック、表面性状の再現方法について最前線の審美技術を実践する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶材焼付金属の製作過程を理解する。</li> <li>・マージンポーセレン法の手順、注意点を理解する。</li> <li>・内部ステインテクニックの手順、注意点を理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料「ポーセレン実習テキスト」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)						
特記事項	ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/6)	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (基礎編)	実習	基本的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。
2	マージンポーセレン築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	マージンポーセレンの目的、取り扱い法について理解する。 マージンポーセレン法の手順、注意事項について理解する。
3	デンティン・エナメル築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕 内部ステイン築盛・焼成〔下顎左側第二小臼歯〕	実習	内部ステインの目的、取り扱い法について理解する。 デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
4	デンティン・エナメル築盛・焼成 〔下顎左側第二小臼歯〕 内部構造付与 〔上顎右側中切歯〕	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。 内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。
5	デンティン・エナメル築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
6	内部構造付与 〔上顎右側中切歯〕	実習	内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。
7	内部構造付与～内部ステイン 〔上顎右側中切歯〕	実習	内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。 内部ステインの目的、築盛・焼成法について理解する。
8	ラスター陶材 築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解する。
9	ラスター陶材 築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解する。
10	形態修正 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解する。
11	表面仕上げ～グレージング～研磨 完成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
12	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (臨床編)	実習	臨床的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。
13	表面仕上げ～グレージング～研磨 〔上顎右側中切歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
14	表面仕上げ～グレージング～研磨 〔下顎左側第二小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
15 (7/28)	メタル研磨 完成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。



科目名 (英)	歯科技工実習総合 I Training of Dental Technology I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	9/1～9/28
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯科技工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列の基礎技術力を習得する。						
科目概要	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯のデッサン、歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習を進めることができるようになる。</li> <li>・全部金属冠のワックスアップの方法、注意点を理解し、実習を進めることができるようになる。</li> <li>・全部床義歯の前歯部排列(下顎法)の方法、注意点を理解し、実習を進めることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (9/1)	実技トレーニング① 上顎右側中切歯 デッサン・彫刻トレーニング①	実習	上顎右側中切歯の特徴について理解する。 上顎右側中切歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
2	実技トレーニング② 排列トレーニング①[上下顎前歯部]	実習	上顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解する。 下顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解する。
3	実技トレーニング③ 排列トレーニング②[上下顎前歯部]	実習	上顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解する。 下顎前歯部の排列基準、排列方法、注意点について理解する。
4	実技トレーニング④ 上顎左側第一大臼歯 ワックスアップトレーニング①	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。
5	実技トレーニング⑤ 上顎右側第一小臼歯 デッサン・彫刻トレーニング②	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 上顎右側第一小臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
6	実技トレーニング⑥ 上顎左側第一大臼歯 デッサン・彫刻トレーニング③	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 上顎左側第一大臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
7	実技トレーニング⑦ 下顎右側第一大臼歯 デッサン・彫刻トレーニング④	実習	下顎右側第一大臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第一大臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
8	上顎右側中切歯 デッサン(30分間)、彫刻(45分間)	実習	上顎右側中切歯の特徴をについて理解する。 上顎右側中切歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
9	実技トレーニング⑧ 排列トレーニング③[修正]	実習	排列トレーニング②の修正を通して、全部床義歯(下顎法)の前歯部人工歯の排列基準、排列方法、注意点について理解する。
10	全部床義歯人工歯排列および振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列を行う。製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
11	全部床義歯人工歯排列および振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列を行う。製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
12	上顎右側第一小臼歯 デッサン(30分間)、彫刻(45分間)	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 上顎右側第一小臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
13	上顎左側第一大臼歯 デッサン(30分間)、彫刻(45分間)	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 上顎左側第一大臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
14	下顎右側第一大臼歯 デッサン(30分間)、彫刻(45分間)	実習	下顎右側第一大臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第一大臼歯のデッサン・彫刻の注意点について理解する。
15 (9/28)	上顎左側第一大臼歯 Cr. Wax up (45分間)	実習	上顎左側第一大臼歯の特徴について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	課題研究実習 I Research and Professional Plactice I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	8/24～9/26
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した知識と技術を結集した卒業課題研究作品を製作し歯科技工の技術を総合的に習得する。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら設定した課題に基づいて、歯科技工物を製作することができるようになる。</li> <li>・製作計画を立案し、実行できるようになる。</li> <li>・作業模型製作、咬合器装着 症例の下準備状況をチェックしながら製作できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、不合格とする。評価は、実技試験として、「提出作品」を60点、レポートの評価を40点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「教科書」、「実習プリント」、「専門書」などを課題に合わせて調べることを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	製作課題については、発表会およびコンテストを行う。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (8/24)	課題研究作品の製作 Stage1	実習	①Cr.Br: 模型製作～咬合器装着 ②PD: レジン床 設計～リリーフ～ブロックアウト、金属床 設計～リリーフ～ブロックアウト ③FD: 模型製作・咬合床製作
2	課題研究作品の製作 Stage1	実習	①Cr.Br: 模型製作～咬合器装着 ②PD: レジン床 維持装置製作、金属床 設計～リリーフ～ブロックアウト ③FD: 模型製作・咬合床製作
3	課題研究作品の製作 Stage1	実習	①Cr.Br: 模型製作 咬合器装着 ②PD: レジン床 咬合器装着、金属床 咬合器装着 ③FD: 咬合床製作～咬合器装
4	課題研究作品の製作 Stage2	実習	①Cr.Br: ワックスアップ～窓開け ②PD: レジン床 維持装置 連結子製作、金属床 複印象 耐火模型製作 ③FD: 前歯部排列
5	課題研究作品の製作 Stage2	実習	①Cr.Br: ワックスアップ～窓開け～スブルーイング ②PD: レジン床 維持装置 連結子製作、金属床 ワックスアップ ③FD: 前歯部排列～臼歯部排列
6	課題研究作品の製作 Stage2	実習	①Cr.Br: ワックスアップ～窓開け～スブルーイング ②PD: レジン床 維持装置 連結子製作、金属床 ワックスアップ ③FD: 前歯部排列～臼歯部排列
7	課題研究作品の製作 Stage2	実習	①Cr.Br: スブルーイング～埋没 ②PD: レジン床 維持装置 連結子製作、金属床 ワックスアップ～スブルーイング ③FD: 臼歯部排列
8	課題研究作品の製作 Stage2	実習	①Cr.Br: スブルーイング～埋没～鋳造 ②PD: レジン床 維持装置 連結子製作、金属床 ワックスアップ～スブルーイング ③FD: 臼歯部排列
9	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: 鋳造～掘り出し～メタル調整 ②PD: レジン床 人工歯排列、金属床 スブルーイング 埋没 ③FD: 臼歯部排列～歯肉形成
10	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: メタル調整 ②PD: レジン床 人工歯排列、金属床 掘り出し～スブルーカット ③FD: 排列完成～歯肉形成
11	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: メタル調整 ②PD: レジン床 人工歯排列、金属床 掘り出し～スブルーカット ③FD: 排列完成～歯肉形成
12	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: メタル調整～ディギャッシング ②PD: レジン床 人工歯排列～歯肉形成、金属床 スブルーカット～形態修正 ③FD: 歯肉形成
13	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: ディギャッシング～オペーク陶材 築盛・焼成 ②PD: レジン床 歯肉形成 完成～、金属床 形態修正～粗研磨 ③FD: 歯肉形成
14	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: オペーク陶材 築盛・焼成(追加) ②PD: レジン床 蝟義歯 完成～、金属床 中研磨～仕上げ研磨 ③FD: 歯肉形成
15 (9/26)	課題研究作品の製作 Stage3	実習	①Cr.Br: オペーク陶材 築盛・焼成 完了 ②PD: レジン床 蝟義歯 完成～維持装置固定、金属床 研磨 完成 ③FD: 蝟義歯 完成

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅱ Dental Technology II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態		講義	有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			開講期間	4/10～9/5
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、顎口腔機能学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学等の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士として必要な知識を総合的に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目の枠を超え総合的に知識の定着をさせることができるようになる。</li> <li>・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/10)	顎口腔機能学 解説授業 顎口腔系、下顎位	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
2	矯正歯科技工学 解説授業 正常咬合と不正咬合	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
3	小児歯科技工学 解説授業 ヘルマンの歯齡、萌出順序、乳歯の特徴	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
4	顎口腔機能学 解説授業 下顎位、下顎運動	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
5	矯正歯科技工学 解説授業 アングルの分類、器材、ワイヤー屈曲、ロウ着	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
6	小児歯科技工学 解説授業 無歯期～混合歯列期	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
7	顎口腔機能学 解説授業 下顎運動、平面、咬合器	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
8	矯正歯科技工学 解説授業 模型、装置の分類	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
9	小児歯科技工学 解説授業 クラウンレフ、ディスタルシュー	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
10	顎口腔機能学 解説授業 咬合器、咬合	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
11	矯正歯科技工学 解説授業 舌側弧線装置、アチハートル 拳上板、斜面板、拡大装置	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
12	小児歯科技工学 解説授業 保障、舌側弧線装置、ナンス、床型	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
13	顎口腔機能学 解説授業	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
14	矯正歯科技工学 解説授業	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
15 (9/5)	小児歯科技工学 解説授業	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯総合実習 Denture Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	10/2～11/29
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、有床義歯技工学について知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	全部床義歯の製作過程である人工歯排列(下顎法)、歯肉形成の技術力を習得する。						
科目概要	全部床義歯の人工歯排列(下顎法)、歯肉形成について、「スピード」、「正確さ」を身につけることができるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>全部床義歯前歯部排列法(下顎法)の手順、注意点を理解し、人工歯排列することができるようになる。</li> <li>全部床義歯臼歯部排列法(下顎法)の手順、注意点を理解し、人工歯排列することができるようになる。</li> <li>全部床義歯の歯肉形成の手順、注意点を理解し、完成させることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「確認試験」40点、「提出作品」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「排列マニュアル」および「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/2)	全部床義歯排列①[トライ] 全部床義歯排列①[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。
2	全部床義歯排列②[トライ] 全部床義歯排列②[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。
3	全部床義歯排列・歯肉形成③[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成③[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
4	全部床義歯排列・歯肉形成③[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。
5	全部床義歯排列・歯肉形成④[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成④[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
6	全部床義歯排列・歯肉形成④[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。
7	全部床義歯排列・歯肉形成⑤[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成⑤[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
8	全部床義歯排列・歯肉形成⑤[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。
9	全部床義歯排列・歯肉形成⑥[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成⑥[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
10	全部床義歯排列・歯肉形成⑥[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。
11	全部床義歯排列・歯肉形成⑦[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成⑦[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
12	全部床義歯排列・歯肉形成⑦[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。
13	全部床義歯排列・歯肉形成⑧[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成⑧[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
14	全部床義歯排列・歯肉形成⑧[チェック] 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。
15 (11/29)	全部床義歯排列・歯肉形成⑨[トライ] 全部床義歯排列・歯肉形成⑨[チェック]	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の歯肉形成の手順、注意事項について理解する。 制限時間内で全部床義歯の排列・歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。



科目名 (英)	新冠修復総合実習 Restorative Dentistry Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	10/5～11/21
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、新冠修復技工学について知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	全部金属冠の製作過程であるワックスアップ(盛り上げ法)の基礎技術を習得する。						
科目概要	全部金属冠のワックスアップ(盛り上げ法)について、「スピード」、「正確」を身につけることができるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上顎左側第一大臼歯の特徴を理解する。</li> <li>・全部金属冠ワックスアップの手順を理解する</li> <li>・全部金属冠ワックスアップの注意点を理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「確認試験」40点、「提出作品」40点、レポートの評価20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験   <input type="checkbox"/> 口頭試験   <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験   <input type="checkbox"/> 論文   <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「新冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「新冠修復技工学」の教科書および「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 新冠修復技工学 実習プリント(オリジナル)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/5)	全部金属冠Wax up①【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up①【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
2	全部金属冠Wax up②【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up②【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
3	全部金属冠Wax up③【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up③【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
4	全部金属冠Wax up④【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up④【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
5	全部金属冠Wax up⑤【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑤【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
6	全部金属冠Wax up⑥【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑥【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
7	全部金属冠Wax up⑦【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑦【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
8	全部金属冠Wax up⑧【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑧【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解し、修正箇所をチェックする。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を習得する。
9	全部金属冠Wax up⑨【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑨【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について復習する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
10	全部金属冠Wax up⑩【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑩【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
11	全部金属冠Wax up⑪【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑪【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
12	全部金属冠Wax up⑫【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑫【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
13	全部金属冠Wax up⑬【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑬【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
14	全部金属冠Wax up⑭【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑭【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。
15 (11/21)	全部金属冠Wax up⑮【トライ】(45分間) 全部金属冠Wax up⑮【チェック】	実習	全部金属冠Wax up(盛り上げ法)の手順、注意事項について理解する。 上顎左側第一大臼歯の正しい形態を理解する。 制限時間内で全部金属冠のWax upを完成させる技工術式を理解する。



科目名 (英)	課題研究実習Ⅱ Research and Professional Plactice II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	2/20～3/1
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した知識と技術を結集した卒業課題研究作品を製作することができる。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作しプレゼンテーションする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら設定した課題に基づいて、計画的に製作を進め、歯科技工物を完成させることができるようになる。</li> <li>・作品についてプレゼンテーション資料を作成し、発表することができるようになる。</li> <li>・課題製作を通して、専門知識や技術を深めることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」を60点、「レポートの評価」を40点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「教科書」、「実習プリント」、「専門書」などを課題に合わせて調べることを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	特になし						
特記事項	製作課題については、発表会を行う。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (2/20)	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～、金属床 人工歯排列～ ③FD: 蝟義歯埋没(一次)～ ※各自の計画表を作成すること
2	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(一次)～
3	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～流蝟～填入、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(二次)～
4	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～流蝟～填入、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(二次)～
5	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 重合～掘り出し、金属床 歯肉形成～ ③FD: 蝟義歯埋没 完了
6	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 重合～掘り出し、金属床 歯肉形成～埋没 ③FD: 蝟義歯埋没 完了
7	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 掘り出し～咬合器再装着、金属床 埋没～重合 ③FD: 重合～掘り出し～咬合器再装着
8	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 形態修正～粗研磨 ②PD: レジン床 削合～床縁部の形態修正～粗研磨、金属床 重合～咬合器再装着 ③FD: 削合～床縁部の形態修正～粗研磨
9	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 形態修正～粗研磨 ②PD: レジン床 ～粗研磨～中研磨～、金属床 咬合器再装着～削合 ③FD: 削合～床縁部の形態修正～粗研磨
10	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 粗研磨～中研磨～ ②PD: レジン床 中研磨～、金属床 粗研磨～ ③FD: 粗研磨～中研磨～
11	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 粗研磨～中研磨～ ②PD: レジン床 中研磨～ 金属床 粗研磨～中研磨～ ③FD: 粗研磨～中研磨～
12	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 中研磨～仕上げ研磨～完成 ②PD: レジン床 中研磨～仕上げ研磨～、金属床 中研磨～仕上げ研磨～完成 ③FD: 中研磨～仕上げ研磨～完成
13	課題研究作品の製作 Stage5	実習	①Cr.Br: 課題作品、レポート ②PD: 課題作品、レポート ③FD: 課題作品、レポート
14	課題研究作品の製作 Stage5	実習	①Cr.Br: 課題作品、レポート 完成 ②PD: 課題作品、レポート 完成 ③FD: 課題作品、レポート 完成
15 (3/1)	課題研究作品の製作 Stage5	実習	①Cr.Br: 課題作品、～プレゼンテーション ②PD: 課題作品、～プレゼンテーション ③FD: 課題作品、～プレゼンテーション

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅱ Training of Dental Technology II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	12/4～12/20
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での臨床経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、蠟型採得、人工歯排列・歯肉形成、歯のデッサンや歯型彫刻について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	全技協実技評価試験出願判定試験の作品についてフィードバックを受け実力を確認、今後の課題を理解する。国家試験実地試験で出題される課題の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用い自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部金属冠の蠟型採得を、制限時間(60分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。</li> <li>・総義歯人工歯排列・歯肉形成を、制限時間(2時間30分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。</li> <li>・指定された歯のデッサンと歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「課題製作」80点、「提出作品」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル) 制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/4)	課題製作-1 全部金属冠の蠟型採得	実習	課題:60分で全部金属冠の蠟型採得を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
2	課題製作-2 総義歯人工歯排列・歯肉形成	実習	課題:2時間30分で総義歯人工歯排列・歯肉形成を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
3	課題製作-2 総義歯人工歯排列・歯肉形成	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
4	トレーニング① 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
5	トレーニング② 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
6	トレーニング③ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
7	トレーニング④ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
8	トレーニング⑤ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
9	トレーニング⑥ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
10	トレーニング⑦ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
11	トレーニング⑧ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
12	トレーニング⑨ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
13	トレーニング⑩ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
14	トレーニング⑪ 歯のデッサン・彫刻	実習	国家試験実施試験に向けてトレーニングを行う。トレーニング後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
15 (12/20)	課題製作-3 歯のデッサン・彫刻	実習	課題:歯のデッサン(30分間)、歯型彫刻(45分)の製作を行う。この実習で提出された作品は成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	12/21～2/3
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	「歯のデッサン」「ワイヤー屈曲」「歯型彫刻」の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いた自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	指定された歯のデッサン、ワイヤー屈曲、歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「課題製作」75点、「提出作品」25点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワイヤー屈曲の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/21)	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
2	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
3	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
4	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
5	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
6	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
7	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
8	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
9	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
10	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
11	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
12	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
13	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
14	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はブレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
15 (2/3)	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅳ Training of Dental TechnologyⅣ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	2/7～2/19
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	「歯のデッサン」「ワイヤー屈曲」「歯型彫刻」の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いた自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	指定された歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」75点、「課題製作」25点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワイヤー屈曲の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (2/7)	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
2	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
3	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
4	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
5	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
6	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
7	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
8	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
9	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
10	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
11	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
12	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
13	トレーニング⑦ 歯のデッサン	実習	歯のデッサンのトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
14	課題製作 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題・90分で国家試験(実地)の出題課題を行う。
15 (2/19)	課題製作 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	この実習で提出された作品は成績評価する。製作後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。



科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅲ Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	90	授業回数	45	開講区分	後期
		単位	6			開講期間	10/3～2/2
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士国家試験に合格できる力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目の枠を超え知識の振り返りをする。</li> <li>・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させる。</li> <li>・模試B4(統一模試②)において、国家試験合格基準である60%以上の正解を得ることができる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/3)	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
2	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
3	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
4	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
5	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
6	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
7	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
8	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
9	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
10	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
11	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
12	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
13	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
14	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
15	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
16	まとめ講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
17	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
18	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題をを中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。



19	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
20	まとめ講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
21	まとめ講義 (関係法規)	講義	関係法規について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
22	まとめ講義 (矯正歯科技工学)	講義	矯正歯科技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
23	まとめ講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
24	まとめ講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
25	まとめ講義 (小児歯科技工学)	講義	小児歯科技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
26	まとめ講義 (顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
27	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
28	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
29	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
30	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
31	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
32	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
33	まとめ講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
34	まとめ講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
35	まとめ講義 (小児歯科技工学)	講義	小児歯科技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
36	まとめ講義 (顎口腔機能学)	講義	顎口腔機能学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
37	まとめ講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
38	まとめ講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
39	まとめ講義 (矯正歯科技工学)	講義	矯正歯科技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
40	まとめ講義 (関係法規)	講義	関係法規について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
41	総合講義 (有床義歯技工学・矯正歯科技工学)	講義	有床義歯技工学ならびに矯正歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
42	総合講義 (歯冠修復技工学・関係法規)	講義	歯冠修復技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
43	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
44	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
45 (2/2)	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科技工学ならびに顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。